

NPO 法人ピュアコスモ主催

平成 26 年度「高機能自閉症スペクトラムのある方の就労に向けた保護者のための連続講座」 報告書

平成 26 年度 NPO 法人ピュアコスモでは、「就労に向けた支援を考える」ことをテーマに、高校生以上の当事者を対象に「就労に向けた SST」を実施した。また、高校生以上の子どもを持つ保護者を対象に「就労に向けた保護者のための連続講座」（全 5 回、表 1 参照）を企画・実施しました。

今年度の保護者の参加人数は、社会人の保護者 7 名、大学生（専門学校）等の保護者 5 名、高校生の保護者 12 名、合計 24 名でした。なお、本講座は、井澤信三研究室（兵庫教育大学大学院）の大学院生と特別支援学校教員等がスタッフとして参加し、企画・運営を担当しました。

表 1 日程とテーマ・主な内容について

	テーマ	内容
① 11 月 16 日(日)	就労の現状を知ろう	「就労の現状と支援のポイント」 講師：池田氏(NPO 法人 JSN 新大阪アネックス)
② 12 月 7 日(日)	就労支援の 法制度と実際	「発達障害者の雇用の現状を知ろう」 講師：和田氏(兵庫労働局)
③ 1 月 25 日(日)	ジョブコーチの話	「就労支援を知ろう～ジョブコーチの話～」 講師：福島氏(NPO 法人 JSN 茨木)
④ 2 月 22 日(日)	就労した当事者の 保護者の話	「就活・就職の体験談から学ぶ」 講師：発達障害のある子の親 2 名
⑤ 3 月 1 日(日)	家庭でできる支援を 考えよう	「問題解決の方法を知ろう」 講師：池田氏(NPO 法人 JSN 新大阪アネックス)

<第 1 回 就労の現状を知ろう>

第 1 回では、NPO 法人 JSN 新大阪アネックスの池田浩之氏より、「就労の現状と支援のポイント」と題し、働くことの意義やメリットデメリット、“働きたい”ときの窓口としての公共職業安定所ハローワーク（一般窓口と専門援助窓口）等の紹介がありました。就職の仕方として、「一般雇用と障害者雇用の違い」「どちらの雇用かを見極める際の判断基準について」「相談できる場所」「訓練できる場所について」の紹介がありました。生活面としては「障害年金や一人暮らしに向けた準備（福祉施設の利用）」、企業については「一般雇用」「障害者雇用の内容」「受けられる配慮等について」の説明がありました。最後に、事例の紹介とともに就労におけるつまずきへの対処法についての講義が行われました。

お子様の年齢ごとに、社会人グループ(A)、大学生グループ(B)、高校生グループ(C)(D)の 4 つのグループに分かれ、グループディスカッションを行いました。第 1 回のグループディスカッションでは、自己紹介とともに、保護者が現在感じている「働くことへの不安」

について意見を出し合いました。障害の告知や、障害者手帳を取るべきかどうかといった不安、現在の所属での対人関係上の課題等が出され、それぞれの年代で不安や悩み、疑問を共有、共感し合いながら話し合いがなされました。

今年度からの取り組みとして、ホームワークも実施しました。第1回目のホームワークは、「お子様の良いところを10個あげる」という課題でした。

<第2回 発達障害者の雇用の現状を知ろう>

第2回では、兵庫労働局職業安定部職業対策課の和田頭也氏より「発達障害者の雇用の現状を知ろう」と題し、障害者雇用の現状から、働くために必要なこと、障害開示について、障害者雇用の理念の紹介がありました。ハローワークでの相談の流れや、障害者雇用納付金制度、特例子会社制度等、各制度の概要についても説明されました。障害者雇用の際に利用できる、「職場適応援助者（ジョブコーチ）支援（Fig.1 参照）」や「トライアル雇用（障害者試行雇用事業）（Fig.2 参照）」、「精神障害者ステップアップ雇用」等の制度、「ハローワークでの精神障害者雇用トータルサポーター設置」「職業能力開発校等について」のご紹介もありました。

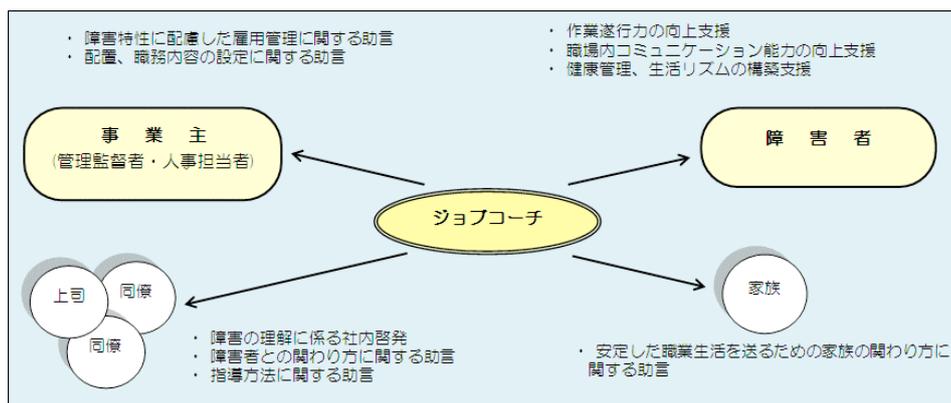


Fig.1 職場適応援助者(ジョブコーチ)による支援



Fig.2 「トライアル雇用」における障害者雇用のきっかけづくり
 ～障害者試行雇用事業～

グループディスカッションでは、第1回のホームワーク(お子様の良い所を10個あげる)の共有を行いました。「人を責めない」「真面目」等、性格に関したものの、「理解したらやる気が出る」「一生懸命取り組もうとする」等、働くうえでの基礎となる部分に関する良い所をみつけられていらっしゃいました。

第2回に出されたホームワークは、「お子様の就労に活かせそうなことを5つあげる」というものでした。

<第3回 就労支援を知ろう～ジョブコーチの話～>

第3回では、「就労支援を知ろう～ジョブコーチの話～」と題して、NPO 法人 JSN 茨木の福島美和子氏より、JSN における支援内容に関する JSN の概要、ジョブコーチ制度について、ジョブコーチの職務、ジョブコーチとしての支援のポイントに関する紹介がありました。

JSN における支援では、下から「生活面・意欲」「病状管理・対人面」「職業生活面」の職業ピラミッド (Fig.3-1 参照) の就労支援上の優先順に基づき、問題行動への介入の優先順序を決めます。その問題行動へは、「行動的アプローチ」「認知的アプローチ」「環境調整」等の視点から、つまずきの認められる部分への介入 (Fig.3-2 参照) が行われます。対談では、これらの支援の流れも含め、当事者の方が障害者雇用に至った経緯 (障害の告知や卒業後の就活内容、利用した機関、制度) や、勤務内容、就職して出会った課題と、その課題を対処した方法等を話していただきました

第3回のホームワークでは、「就労に向けて取り組んでいること」がだされました。

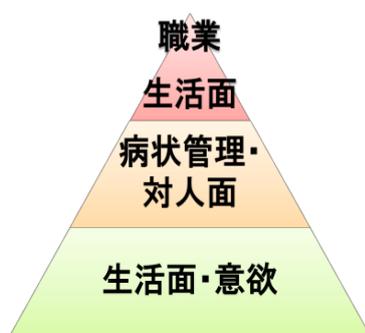


Fig. 3-1 SN における支援①

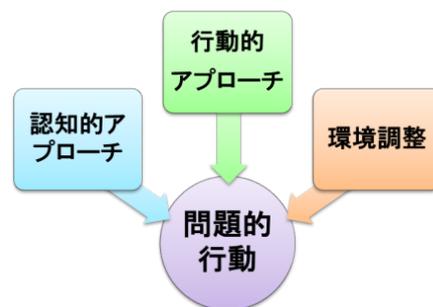


Fig. 3-2 JSN における支援②

<第4回 就活・就職の体験談から学ぶ>

第4回では、「就活・就職の体験談から学ぶ」と題して、実際に就労につながった発達障害のあるお子さんの保護者の方 (close 就労)、および高校卒業後に open 就労を目指している方と、それぞれの方と兵庫教育大学・井澤氏との対談が行われました。

それぞれ、お子さんの幼少期からの生き立ちや、各時期で受けた支援や出来事、高校卒

業後の進路から、就活の様子、診断や告知に至るまで丁寧にお話し下さいました。就活・就労に関しては、openにするか、closeにするかの選択や、仕事内容、現在の課題等についてでした。保護者からは、就労に向けて大切なこととして、「できること・できないことを知る」「職場の環境調整を図る」というメッセージをいただきました。

障害告知から進路選択、就活の流れといったリアルな実体験は、お子様の就労を控えた保護者にとって、今後の就労イメージにもつながるとも貴重なお話となりました。フロアの保護者の方もうなずき共感しながらお話を聞いていらっしゃいました。

第4回のホームワークは、「講義を受けて、何かひとつ取り組んでいること、もしくは取り組もうと思うこと」が出されました。

＜第5回 問題解決の方法を知ろう＞

グループディスカッションでは、前回のホームワーク「講義を受けて、何かひとつ取り組んでいるもの、もしくは取り組もうと思うもの」について意見交換をしました。実際にオープンキャンパスの予約を取ったり、大学のキャリアセミナーを活用して就労の準備をされていたり、アルバイトをすることや、具体的な活動に移されているようでした。

第5回は、NPO法人JSN 新大阪アネックスの池田浩之氏より、まず、制度や支援についてのこれまでの振り返りがありました。その後、「問題解決の方法を知ろう」と題し、家族がお子様の就労における課題に出会ったときに実際に活用できる問題解決法に関する講義が行われました。そして、事例を基に、各グループで、問題解決の5つのステップ（①問題をポジティブに考える、②問題を明らかにする、③多くの解決方法を考える、④適切な解決方法を選択する、⑤解決方法を実行し、その効果を検証する）のうち、③と④のステップを考えました。流れとしては、グループでたくさん解決方法を挙げ、それぞれの解決策の効果と実行できるかどうかを考えるため、それぞれの解決策に対し、点数をつけ、最善の解決策を選び、グループごとで発表し合い、意見を共有しました。また、自身の子どもだったら実際にできるか具体的にイメージしながら、積極的なディスカッションがなされていました。

最後に講座全体のアンケートを行い、全講座を終了しました。

各回で、専門機関の方や、保護者、当事者といった様々な立場の方からの情報が得られ、これからの就労に向けた準備に役立つ講座となったと考えています。